

平成31年度(2019年)組織改編の概要について

古川農業試験場

1 組織改編の理由

- ・宮城県古川農業試験場は、平成11年(1999年)に現在の大崎市東大崎に新築移転し、平成13年の組織再編により現在の研究体制(4部)になりました。
- ・農業を取り巻く情勢の変化や試験研究の将来展望を踏まえ、平成28年4月に「農業関係試験研究のあり方に関する検討会」を設置し、平成29年1月に「農業関係試験研究改革プラン」を策定しました。
- ・このプラン及び「第8次農業試験研究推進構想(平成28～32年度)」を踏まえ、試験研究ニーズの多様化への対応や効率的な試験研究の実施等に向け、平成31年4月に組織体制を改編しました。

2 組織改編の概要

- ・大規模土地利用型農業法人等の経営安定と「みやぎ米ブランド化戦略」等の実現に向けた取組を具体的に推進するため、研究開発の重要度や効率性を視野に入れた新たな研究体制の構築を図ります。
- 水田営農部……新たに「営農企画チーム」を設置し、試験場内、農業・園芸総合研究所及び普及組織との連絡調整や、横断的研究の企画運営を実施するとともに社会実装に向けた大規模水田営農試験、生産基盤整備のための試験を担います。
- 作物育種部……水稻の育種から評価までの一貫した品種開発の実施体制とするほか、岩沼市駐在の原種・原産種生産業務を農園研から移管しました。
- 作物栽培部……水稻直播栽培や水稻・大豆・麦の新品種栽培法等の基礎試験を担います。
- 作物環境部……土壌肥料分野から病害虫分野までの総合的な栽培環境の最適化に関する試験研究を担います。

<組織改編イメージ図>
平成13～30年度

☆4月から連絡先の電話番号も変わりました。
平成31年度

